里山と種苗採取について

7つの約束

わたしたちは、「里山ユニット」を次の「7 つの約束」を守ってつくっています。

1. 全て「在来種」の植物を植えます。
2. 「在来種」は「江戸時代以前に日本に自生していた植物」と定義します。
3. 植える植物の 50%以上は、“アーバン・シード・バンク” プロジェクトの協力里山ネットワークから提供された『里山種苗』を使います。
4. 『里山種苗』の購入資金は、里山ネットワークの山の管理費用に使います。
5. 植物採取のルールについては、里山ネットワークと取り決めを行っています。
6. 種苗提供元の里山の地域設定については、『生物多様性のための国土区分』(環境省 平成 13 年) をベースにします。
7. 『里山種苗』の供給地は見に行くことができます。

熱海の里山・苗木圃場

熱海の里山データ

1．所在地：
静岡県熱海市下多賀

2．里山管理者：
合同会社フォレストウォーカー

3．この里山にある主な樹種：
アカメガシワ、ツルウメモドキ、ヤブムラサキ、アオハダ、コナラ、シイ・カシ類、ヒサカキ、ヒイラギなど

4．関連 WEB サイト：
Present Tree from 熱海の森
http://www.presenttree.jp/lineup/lineup19.html

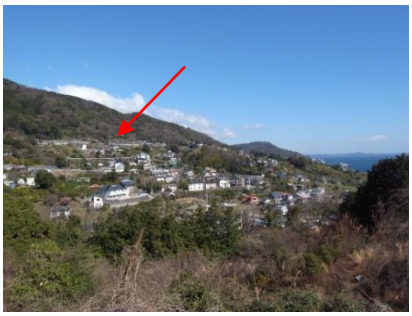
熱海の里山

里山の位置

里山遠景

里山再生の担い手

熱海の圃場



圃場遠景

ハウス圃場の苗木

山林内圃場の苗木

森、ヒト、地球

熱海の森フォレストウォーカー　佐藤憲隆

およそ４億年前の地球、海から初めて陸に上がった生物は苔の仲間である原始的な植物だと言われています。やがて陸地は大森林に覆われ、それに守られながら多種多様な昆虫や陸上動物等が生まれ、進化と繁栄を続けてきました。

森は私たち人類を始めとした、多くの陸上生物のゆりかごとして存在してきました。ゆりかごという言葉は、森林生態系という森を大きなシステムとして捉える言葉に置き換えられます。このシステムは光合成という反応で、太陽のエネルギーから炭水化物を作りだして、陸上生物たちに食物を提供し、同時に
酸素を作りだしてくれるのです。この反応が私たち陸上生物の生命を維持してくれる、一番大事な過程なのです。

一方、私たち人類は、文明を進歩させることに忙しく、この森の存在と役割に無関心で、長年にわたって森を伐採・放置してきました。森の持つ本質的な重要性（公益機能）を無視し続け、今、さまざまな形で自然環境が破壊され続け、地球規模の問題となっているのです。

我が国は国土の約三分の二が森という森林大国ですが、これは地形とモンスーン気候に負うもので、実はこの緑の山河にも大きな危機が迫っているのです。
人工林（スギやヒノキの木材利用を目的に植林されたも）は放置され、真っ暗な森となり、集中豪雨による土砂災害の原因となっています。
里山は長年ヒトと森との相互利用の場として、日本の原風景とも言うべき美しい山里の風景の主役となってきました。しかし、燃料革命によってヒトは里山を放置するという選択をしました。その結果、森は急速に衰退し、生物多様性を低下させ、それとともに、森の持つ公益機能の数々も危機に瀕しているのです。ヒトとの交流で成長・発展してきた里山には、自己修復能力はありません。
私たちが少し手を貸してやることで、豊かな森は復活するのです。
そして、豊かな森の復活こそが、持続可能な地球環境を維持してゆくために欠かせない必須条件のひとつなのです。